



要望書の提出前に路上でリニア工事中止を訴える宗像さん（右）ら＝18日午前8時半、大鹿村

上伊那郡中川村の県道松川インター大鹿線で15日に起きた土砂崩落に絡み、リニア中央新幹線建設工事に反対する下伊那郡大鹿村の一部住民らでつくる「大鹿の十年先を変える会」は18日、リニア工事の即時中止を求める要望書をJR東海と大鹿村に提出した。また、大鹿村観光協会は同日、同県道の通行止めから4日目となり、村内の宿泊施設で予約のキャンセルが出るなど住民生活に影響が出ているとして、県に早期復旧を求めた。

現場はリニア工事に関連する工事用車両などが将来通る四徳渡（しとくわたり）トンネル（仮称、高さ約6メートル、幅約9メートル）の坑口近くにあり、同社や県が掘削との関連を調べている。復旧の見通しは立っていない。

要望書は、事業主体のJR東海の対策が不十分なことから崩落が発生したと主張。原因究明や再発防止策が済むまでのリニア工事停止や住民説明会開催を求めた。要望書は県にも郵送した。同会の宗像充さん（42）は「JRの認識が甘かったということ。復旧まで他のリニア工事も止めるのが筋」としている。

同県道を使う大鹿村の住民らは崩落以降、道幅の狭い迂回（うかい）路を使っただけの生活を余儀なくされている。村観光協会によると、タンクローリーが村へ入ってこられず、ガソリンなど燃料が不足しつつある。宿泊施設で予約のキャンセルも出ているという。同協会は早期復旧を求めるとともに、キャンセルなどで生じた損害の補償請求が可能か県側と協議した。

（12月19日）



土砂崩落の原因を説明する古谷担当部長（中央） = 19日午後6時すぎ、飯田市

上伊那郡中川村大草の県道松川インター大鹿線で15日に発生した土砂崩落について、JR東海（名古屋市）は19日、飯田市で記者会見し、崩れた斜面下方で進めていたリニア中央新幹線関連のトンネル工事の発破作業などによる振動が原因とみられると明らかにした。発破回数も含め、工事そのものに問題はなかったが、斜面の状態を外から確認する「目視が足りなかった」とした。

掘削中のトンネルは、リニア関連の工事車両などが将来利用する「四徳渡（しとくわたり）トンネル（仮称、高さ約6メートル、幅約9メートル）」。戸田建設を代表とする共同企業体（JV）が施工している。

15日午前1時40分ごろ、東側に掘り進めるため発破作業を実施。作業員が午前3時25分ごろに大きな音を聞き、外に出て土砂崩落を確認したという。

会見したJR東海中央新幹線建設部名古屋建設部の古谷佳久担当部長は、斜面が崩れた場所は発破を行った直上ではなく、掘削してきた方向に10メートルほどずれていたと説明。ただ、前日から4回ほど発破を行っており、「振動が繰り返されて土砂崩落が発生したとみられる」とした。

一方、掘削場所が県道と接する坑口から約13メートルだったため「使った火薬の量は通常より少なくしていた」と説明。工事そのものに問題はなかったとの認識を示し、工事を19日夜に機械掘削で再開し、年内にも貫通させるとした。

会見では、現場付近で全面通行止めになっている県道松川インター大鹿線の復旧についても説明。県道上に崩落した土砂の撤去や防護ネットの設置などを行い、早ければ来年1月末から2月上旬ごろには片側交互通行を可能にしたいとした。

（12月20日）